

2026年1月26日

国立病院機構 別府医療センター

小児科・NICU 2025年 年報



別府医療センター 小児科

1. 2025 年 小児科入院統計

- 1) 入院数と転帰 4
- 2) 月別の入院数 4
- 3) 時間帯別の入院数 4
- 4) 年齢別の入院数 5
- 5) 入院数の年次推移 5
- 6) 入院患者の疾病区分 6
- 7) 救急車の受入数 7
- 8) 人工呼吸管理症例 7
- 9) 院内手術症例 7
- 10) 死亡症例 7

2. 2025 年 小児科外来統計

- 1) 外来患者数 8
- 2) 外来患者数の年次推移 8
- 3) 紹介患者数の年次推移 8
- 4) 紹介元医療施設と紹介患者数 9

NICU（新生児集中治療室）

3. 2025 年 NICU 入院統計

- 1) 入院、転帰 10
- 2) 在胎週数、出生体重 10
- 3) 呼吸管理症例 11
- 4) 院内手術症例 11
- 5) 入院数等の年次推移 11
- 6) Category 別の推移 12
- 7) 他院への転院症例 13
- 8) 新生児用救急車の出動形態 13
- 9) 新生児用救急車の出動先 13
- 10) 死亡症例 13

4. 臨床研究・研究業績 14

5. 総評 16

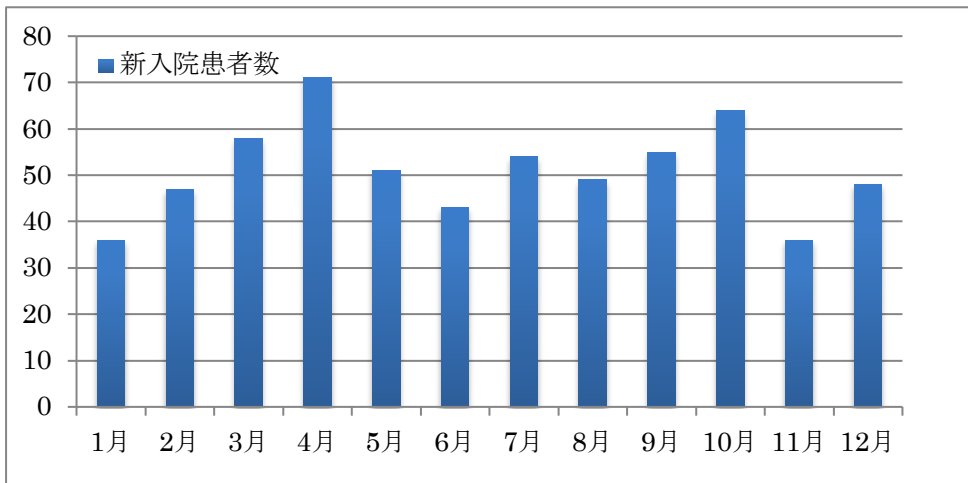
- 1) 2025 年の所感
- 2) 2026 年に向けて

1. 2025年 小児科入院統計

1) 入院数と転帰

	入院	死亡	剖検
入院総数	723 (100%)	3 (0.4%)	0
小児科	612 (85%)	2 (0.3%)	0
NICU	111 (15%)	1 (0.9%)	0

2) 月別の入院数

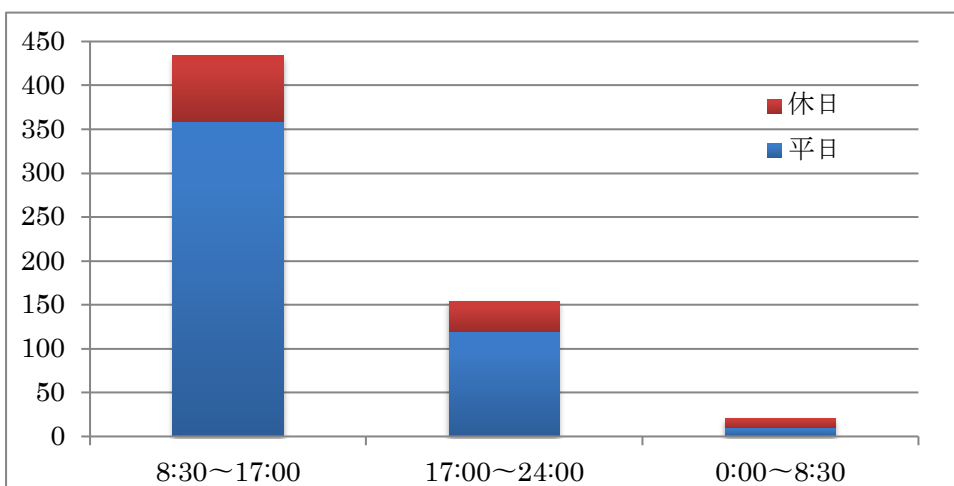


※ NICU 入院患者は除く

4月と10月に感染症の入院患者が増加しました

冬季に感染症が流行する季節性はなくなっています

3) 時間帯別の入院数

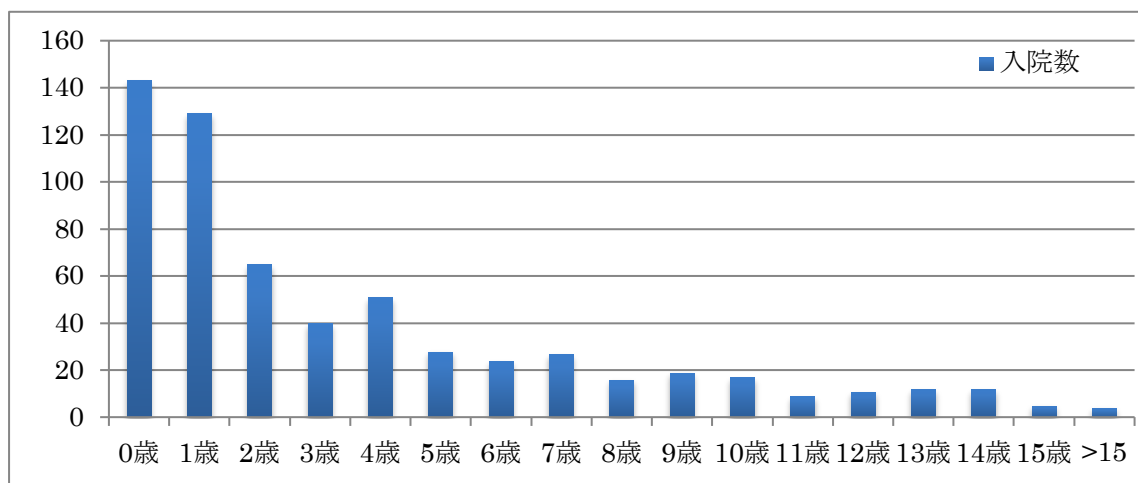


8:30~17:00 435人 (71%)、17:00~24:00 155人 (25%)、0:00~8:30 22人 (4%)

※ NICU 入院患者は除く

日中 (8:30-17:00) と夜間 (17:00-翌 8:30) の入院比率は例年と同様です

4) 年齢別の入院数



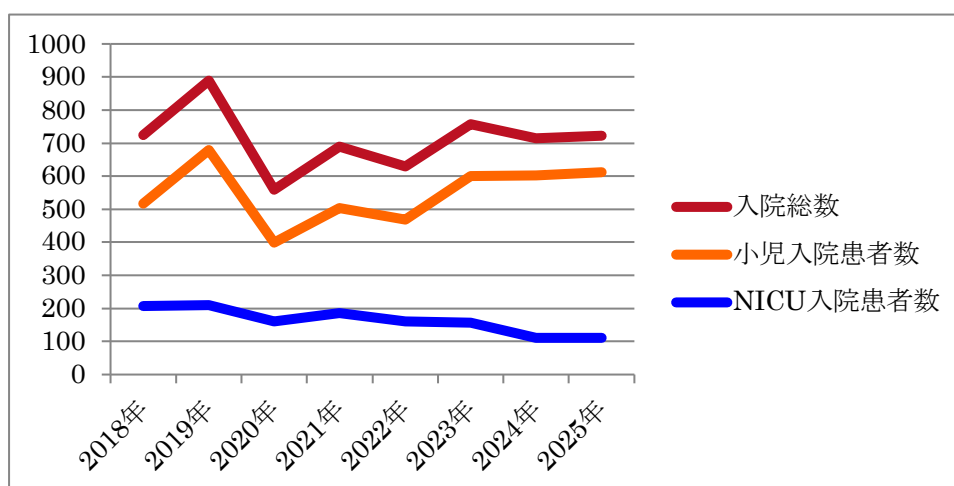
0歳 143人 (23%)、1歳 129人 (21%)、3歳以下 387人 (62%)

※ NICU入院患者は除く

感染症による0-1歳の入院数が多い傾向は例年通りです、4歳でやや増加を認めました

5) 入院数の年次推移

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
小児入院患者数	517	679	399	504	469	600	603	612
NICU入院患者数	207	210	160	186	160	157	111	111
小児科入院総数	724	889	559	690	629	757	714	723



小児入院患者は新型コロナウイルス感染症の流行前と同程度の水準を維持しています

出生数の減少や大分県東部地域の分娩取扱施設の減少に伴って、NICU入院患者数は減少傾向です

6) 入院患者の疾病区分

疾病区分	入院数	主な疾患内訳	症例数
感染症	419	RSウイルス感染症	90
		パラインフルエンザウイルス感染症	38
		ロタウイルス胃腸炎	31
		ライノウイルス感染症	30
		病原体不明の急性胃腸炎	27
		ヒトメタニューモウイルス感染症	25
		病原体不明の急性肺炎	22
		エンテロウイルス感染症	18
		マイコプラズマ肺炎	16
		インフルエンザA・B	16
		病原体不明の急性咽頭炎・扁桃炎	16
		アデノウイルス感染症	11
		A群溶連菌感染症	10
		COVID-19	10
		病原体不明の急性気管支炎	9
		頸部リンパ節炎	7
		尿路感染症	6
		蜂窩織炎	6
		ノロウイルス胃腸炎	5
		百日咳	4
急性中耳炎	4		
急性喉頭炎	3		
その他	15		
神経・精神疾患	46	てんかん発作	21
		複雑型熱性けいれん	20
		末梢神経障害	2
		ウイルス性胃腸炎に伴うけいれん	1
		急性脳症	1
川崎病・自己免疫/炎症性疾患	34	神経性食欲不振症	1
		川崎病	26
		IgA血管炎	3
		免疫介在性壊死性ミオパチー	3
		菊池病	1
アレルギー性疾患	22	PFAPA症候群	1
		アナフィラキシーショック	13
		気管支喘息発作	9
消化器疾患	16	急性虫垂炎	5
		イレウス	5
		急性肝炎	3
		腸重積症	2
		上腸間膜症候群	1
事故・外傷・中毒	15	外傷(骨折、熱傷を含む)	9
		異物誤飲	3
		中毒	2
		ヘビ咬傷	1
内分泌・代謝性疾患	13	低身長症	9
		骨形成不全症	2
		糖尿病	2
呼吸器疾患	9	嚢胞性線維症	4
		呼吸不全	3
		緊張性気胸	1
		無気肺	1
循環器疾患	4	大動脈弓離断複合	1
		修正大血管転位	1
		両大血管右室起始症	1
		心室中隔欠損症	1
腎疾患	3	ネフローゼ症候群	1
		溶連菌感染後急性糸球体腎炎	1
		急性腎不全	1
その他	31	アセトン血性嘔吐症	7
		哺乳不全	5
		熱中症	4
		乳児血管腫	2
		その他	13
計	612		612

※ NICU 入院患者は除く

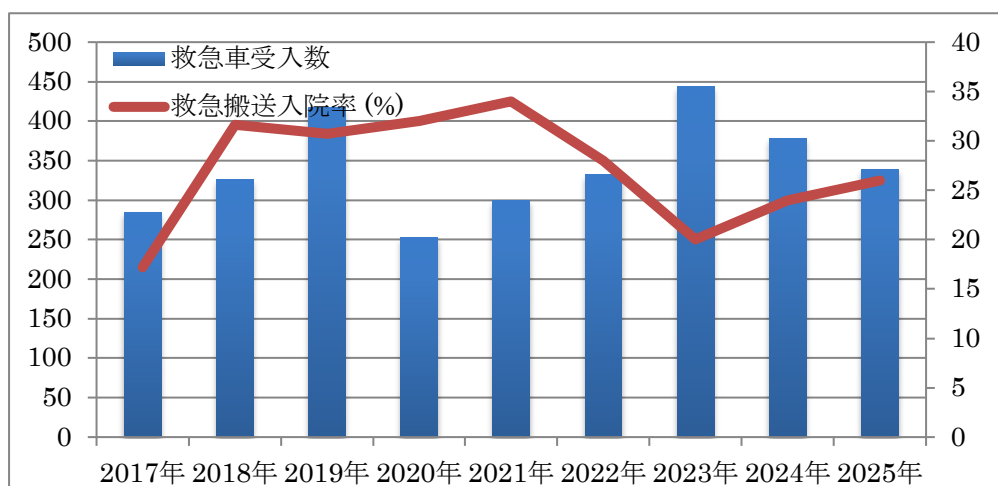
診断名が重複する場合は主たる入院病名を選択した

7) 救急車の受入数

月別救急車受入数 (小児科)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
入院管理	5	4	8	8	5	6	14	6	6	7	4	14	87 (26%)
外来管理	31	15	25	15	27	25	13	23	11	17	18	32	252 (74%)
計	36	19	33	23	32	31	27	29	17	24	22	46	339 (100%)

救急車受入数と救急搬送入院率の年次推移



2017年・2023年に軽症の救急搬送が増加しましたが、2023年以降はやや改善傾向です。夜間こども診療と救急車の適正な使い分けが課題です。

8) 人工呼吸管理症例

敗血症性ショックによる呼吸不全 1例

9) 院内手術症例 (小児科が依頼・実施した手術症例)

診断	術式	例数	手術担当科
急性虫垂炎	腹腔鏡下虫垂切除術	3	消化器外科
腸重積症	空気整復術	2	小児科
胃内異物	内視鏡下胃内異物摘出術	1	小児科
卵巣腫瘍	腹腔鏡下卵巣腫瘍摘出術	1	産婦人科
両側副耳	副耳切除術	1	形成外科
先天性表皮水疱症	指間形成・拘縮解除術	1	形成外科
口蓋垂粘液嚢胞	口蓋垂腫瘍切除術	1	歯科口腔外科

10) 死亡症例

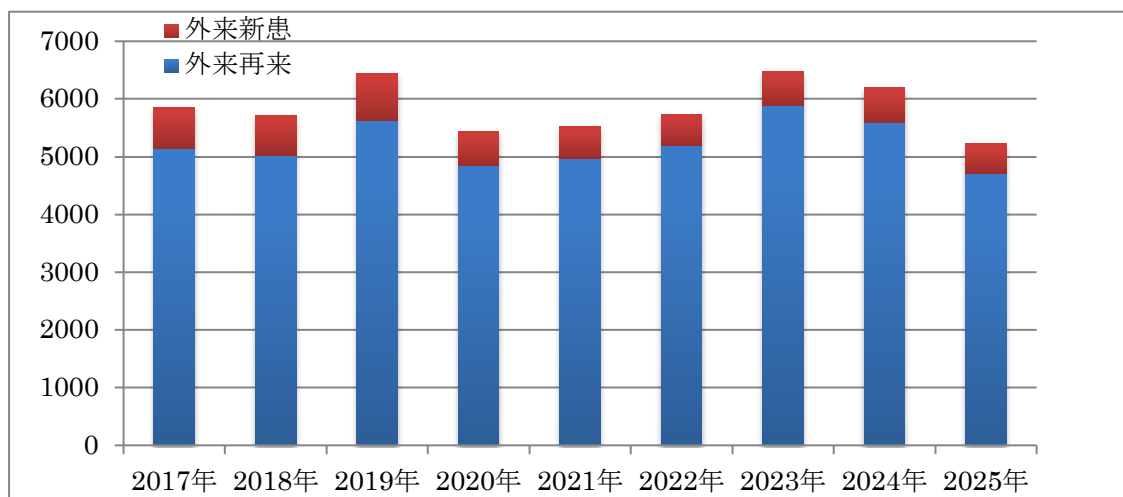
診断
緑膿菌性肺炎・RSV肺炎(染色体異常症)
敗血症性ショック(新生児 GBS 感染症)

2. 2025年 小児科外来統計

1) 外来患者数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
新規外来患者数	52	32	39	37	47	45	41	45	36	45	38	47	507
外来患者総数	445	373	494	404	424	423	480	494	388	427	401	471	5224

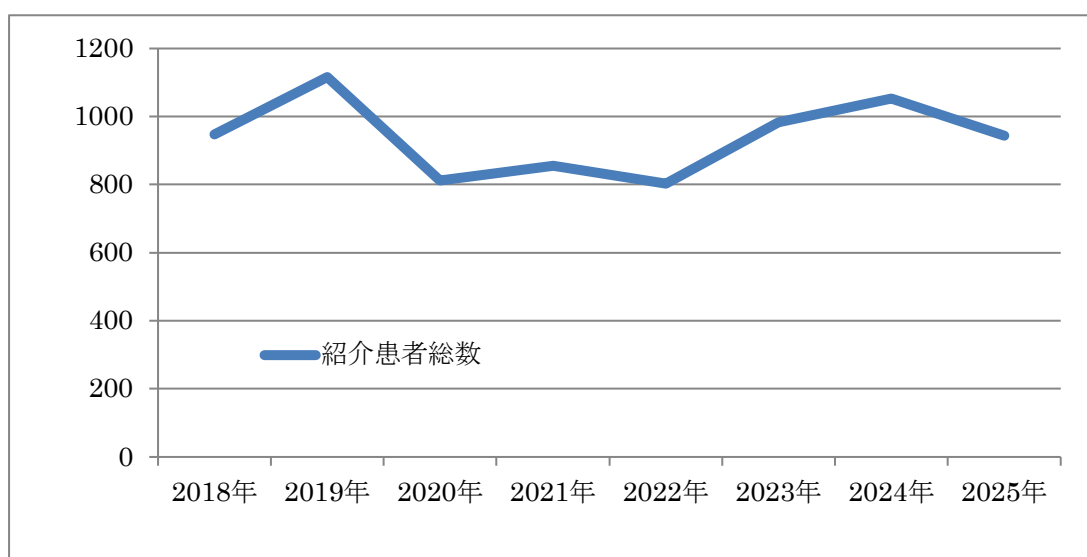
2) 外来患者数の年次推移



外来患者数はやや減少傾向です

3) 紹介患者数の年次推移

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
紹介患者総数	948	1116	812	855	803	983	1053	943



紹介患者数は新型コロナウイルス感染症の流行前と同等の患者数で推移しています

4) 紹介元医療施設と紹介患者数

地域	地域別紹介患者数	紹介元医療施設	紹介患者数	
大分県	別府市	松本小児科医院	344	
		松井小児科医院	79	
		古城小児科医院	63	
		別府市夜間こども診療所	62	
		あおい産婦人科	40	
		衛藤小児科医院	32	
		別府市医師会地域保健センター	27	
		河野小児科医院	15	
		国立病院機構 西別府病院	11	
		矢田こどもクリニック	5	
		大分県厚生連鶴見病院	3	
		別府発達医療センター	2	
		その他	10	
	日出町	125	すがこどもクリニック	82
			てしまこどもの杜クリニック	39
			日出町役場	2
			その他	2
	杵築市	39	伊藤小児科循環器科医院	22
			杵築市立山香病院	6
			くりやまレディースクリニック	6
友岡医院			3	
その他			2	
大分市	19	大分こども病院	7	
		大分県立病院	3	
		その他	9	
宇佐市	9	佐藤レディースクリニック	3	
		佐藤とよかわクリニック	3	
		村上医院	2	
		玄々堂整形外科	1	
豊後高田市	8	ながまつ内科・小児科クリニック	4	
		おしうみファミリークリニック	2	
		みずのえ呼吸器内科クリニック	2	
由布市	5	南由布クリニック	2	
		三ヶ田慈愛会 陣屋の里	2	
		大分大学医学部附属病院	1	
国東市	5	国東市民病院	3	
		朝倉内科医院	1	
		協心橋病院	1	
中津市	5	中津市立中津市民病院	2	
		中津市医師会総合健診センター	1	
		藤吉産婦人科	1	
		秋本こどもクリニック	1	
日田市	1	宮原レディースクリニック	1	
玖珠町	1	岩下クリニック	1	
福岡県	23	JCHO九州病院	17	
		福岡市立こども病院	2	
		その他	4	
その他県外			10	
		計	943	

※ 新生児搬送を除いた小児科紹介患者数

別府市内の医療施設からの紹介が全体の73%を占めています

3. 2025年NICU入院統計

1) 入院・転帰

入院と転帰

	入院		死亡	
入院総数	111		1	
院内出生	95	(86%)	1	(100%)
院外出生	16	(14%)	0	(0%)
再入院	0			
生存退院	110	(99%)	死亡退院	1 (剖検数 0) (1%)

2) 在胎週数・出生体重別の入院数

在胎週数で区分した入院数

週数 (wks)	全入院		院内		院外		院外出生児 の割合
	生存	死亡	生存	死亡	生存	死亡	
26	0	0	0	0	0	0	
27	0	1	0	1	0	0	0%
28	0	0	0	0	0	0	
29	2	0	2	0	0	0	0%
30	2	0	1	0	1	0	50%
31	6	0	6	0	0	0	0%
32	2	0	2	0	0	0	0%
33	3	0	3	0	0	0	0%
34	6	0	6	0	0	0	0%
35	6	0	6	0	0	0	0%
36	13	0	13	0	0	0	0%
37	22	0	21	0	1	0	5%
38	28	0	26	0	2	0	7%
39	7	0	4	0	3	0	43%
40	10	0	4	0	6	0	60%
41	3	0	0	0	3	0	100%
42	0	0	0	0	0	0	
計	110	1	94	1	16	0	14%

※ 在胎 35 週以下の院外出生 3.6% (1/28)、在胎 36 週以上の院外出生 18% (15/83)

在胎 35 週以下の院外出生 1 例は周産期センターで出生後に当院に転院搬送された症例でした
自宅分娩後の入院症例はありませんでした

出生体重で区分した入院数

出生体重 (g)	全入院		院内		院外		院外出生児 の割合
	生存	死亡	生存	死亡	生存	死亡	
500-749	0	1	0	1	0	0	0%
750-999	1	0	1	0	0	0	0%
1000-1499	6	0	5	0	1	0	17%
1500-1999	10	0	10	0	0	0	0%
2000-2499	42	0	41	0	1	0	2%
2500-2999	19	0	16	0	3	0	16%
3000-3499	24	0	17	0	7	0	29%
3500-	8	0	4	0	4	0	50%
計	110	1	94	1	16	0	14%

※ 出生体重 2500g 未満の院外出生 3% (2/60)、出生体重 2500g 以上の院外出生 27% (9/51)

低出生体重児の院外出生の割合は低下しており、望ましい状態です

3) 呼吸管理症例

	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
呼吸管理総数	56	45	29	30	38	18	26
SIMV/HFV 単独	5	1	1	3	3	0	1
SIMV/HFV + Nasal CPAP	10	4	8	7	6	4	9
Nasal CPAP 単独	41	40	20	20	29	14	16

SIMV, Synchronized intermittent mandatory ventilation (間欠的強制換気)

HFV, High frequency ventilation (高頻度人工換気)

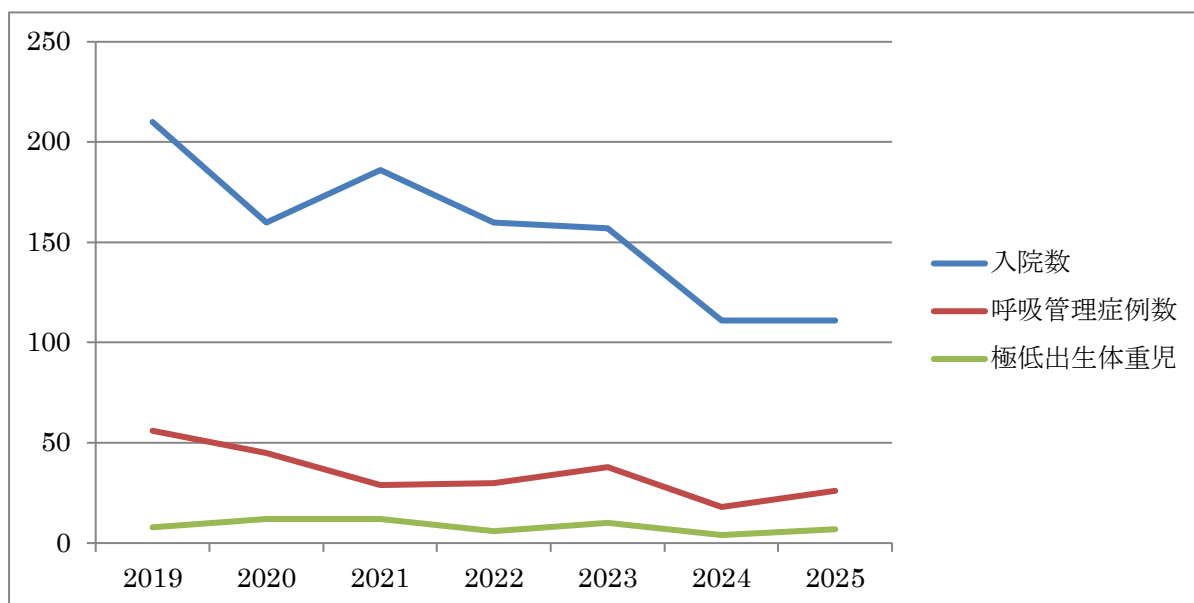
CPAP, Continuous positive airway pressure (経鼻的持続陽圧呼吸)

4) 院内手術症例

なし

5) 入院数等の年次推移

	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
入院数	210	160	186	160	157	111	111
呼吸管理症例数	56	45	29	30	38	18	26
極低出生体重児	8	12	12	6	10	4	7



国内全体の出生数減少、別府市・杵築市内の分娩施設の減少により現状程度の入院数で推移しそうです

6) Category別の推移

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
染色体異常	1	2	0	1	1	0	2
奇形症候群	5	1	1	1	1	0	3
先天性心疾患	8	5	2	7	3	4	3
外科的疾患	0	1	3	3	2	1	1
極低出生体重児	8	12	12	6	10	4	7
低出生体重児	78	64	93	62	63	46	50
新生児仮死	7	1	4	3	5	3	2
頭蓋内出血	2	3	1	1	0	1	1
神経疾患	0	0	1	1	0	0	1
感染症	3	5	3	8	6	4	2
呼吸障害	25	19	16	17	13	8	8
Low Risk	50	31	35	22	28	18	14
その他	23	16	15	28	25	22	17
再入院	0	0	0	0	0	0	0
計	210	160	186	160	157	111	111

7) 他院への転院症例

診断	出生場所	転院先
性分化異常症、動脈管開存症	院内	大分大学医学部附属病院
一過性骨髄異常増殖症、鎖肛 染色体異常症	院内	大分大学医学部附属病院
動脈管開存症	院内	大分県立病院
消化管閉鎖の疑い	院内	大分県立病院
総肺静脈還流異常症	院外	JCHO 九州病院
動脈管開存症、CHARGE 症候群	院内	JCHO 九州病院
兩大血管右室起始症	院内	JCHO 九州病院
大動脈離断、染色体異常症	院内	JCHO 九州病院

先天性心疾患の院外分娩例が減少しています、望ましい状態です

総肺静脈還流異常症や大血管転位症の出生前診断は難しいため、今回の院外出生の一例は周産期管理上の問題はないと判断できます

8) 他院から新生児搬送依頼に応じた院内救急車出動

	出動回数	搬送入院	立会いのみ	当院から転院	三角搬送
2019 年	43	34	1	7	1
2020 年	31	25	1	5	0
2021 年	36	27	0	9	0
2022 年	41	32	0	9	0
2023 年	29	22	1	6	0
2024 年	11	6	0	5	0
2025 年	13	5	0	8	0

9) 新生児用救急車の出動先（産科医療施設）

地域	出生場所	回数
別府市	あおい産婦人科	5
	計	5

上記以外に公共救急車による搬送入院が 10 件ありました

時間外の院内救急車の運転委託先が大分市大在に変更となったため、迅速な緊急出動が事実上困難となったことが原因です

10) 死亡症例

超低出生体重児・ショック 1 例

4. 臨床研究・研究業績

1) 臨床研究

治験

対象疾患	課題名	2026年の登録状況
成長ホルモン分泌不全性低身長症	小児成長ホルモン分泌不全性低身長症患者を対象にグロウジェクトの連続投与に対する JR-142 の週 1 回投与の非劣性検証並びに有効性及び安全性を比較評価する、非盲検、多施設共同、無作為化、並行群間比較、第Ⅲ相試験	エントリー中
von Willebrand 病	重度 von Willebrand 病と診断された小児患者を対象に recombinant von Willebrand factor の定期補充療法の有効性及び安全性を評価する 第 3 相、前向き、非盲検、非対照、多施設共同試験	エントリー中
GBS 感染症	健康な妊婦及びその乳児を対象とした多価 B 群溶血性連鎖球菌ワクチンの安全性、忍容性及び免疫原性を評価する 第 3 相、無作為化、プラセボ対照、二重盲検試験	エントリー中

契約受託研究（製造販売後調査）

対象疾患	課題名	2026年の登録状況
敗血症・深在性皮膚感染症	キュビシン [®] 静注用 350mg 特定使用成績調査 : 日本人小児患者への投与時の安全性	終了
成長ホルモン分泌不全性低身長症	骨端線閉鎖を伴わない成長ホルモン分泌不全性低身長症患者におけるソグルーヤ [®] 長期使用に関する特定使用成績調査	終了

NHO ネットワーク共同研究

課題名	2026年の継続状況
Synbiotics 投与による食物アレルギー発症予防効果の二重盲検ランダム化比較試験による検証 (R4-NHO 小産-01)	継続
ナッツ類アレルギー発症に影響する宿主因子と環境因子の解明/多施設共同前向きコホート研究 (R5-NHO 免アレ-01)	継続
早期発症・進行性の両側性感音難聴の遺伝要因の解明に関する横断研究 (R6-EBM 感覚-01)	継続

NHO ネットワーク以外の共同研究

課題名	2026年の継続状況
国内の血友病 B 未治療小児患者における rIX-FP 投与後の治療実態に関する遡及的診療記録レビュー (CSL654_5016)	終了
咽頭画像の AI 解析による病原体診断の実用化に向けたパイロット研究	継続

単施設研究

なし

2) 研究業績

学会発表・講演

演題名	発表者	学会名	日付	場所
呼吸器パネル PCR 検査の 複数項目陽性割合の年次推移	菊池 優李	第 121 回 日本小児科学会 大分地方会	2025.2.16	大分
呼吸器パネル PCR 検査の 単独項目陽性例における臨床像の比較	佐藤 史子	第 121 回 日本小児科学会 大分地方会	2025.2.16	大分
「大分県内における RS ウイルス感染症予防対策」 策定の経緯	古賀 寛史	第 134 回 大分県周産期 研究会	2025.2.18	大分
両側脳死肺移植を行った 嚢胞性線維症の小児例	山之内 寛和	第 11 回 嚢胞性線維症 情報交換会	2025.12.20	名古屋
<i>PURA</i> -related neurodevelopmental disorders: a case report and a systematic review on genotype-phenotype correlations	古賀 寛史	日本人類遺伝学会 第 70 回大会	2025.12.20	横浜

論文

題名	筆者	誌名	年	巻(号)	ページ
<i>PURA</i> -related neurodevelopmental disorders: a systematic review on genotype-phenotype correlations	Taniguchi N, Watanuki K Nakato D, Takenouchi T, Kosaki K, Koga H.	Journal of Medical Genetics	2025	62	191-198

その他（著書・班研究報告書など）

なし

4. 総評

1) 2025 年の所感

地域住民の方々、近隣の多くの医療機関の皆様のご支援のおかげで一年間の診療を全うすることができました。毎年のことながら感謝申し上げます。嚢胞性線維症という外国人に多く発症し、呼吸不全を示す疾患があります。欧米では早期診断のためのマス・スクリーニング制度や承認された治療薬がありますが、日本国内にはありません。この疾患を持つ外国から移住された児に肺移植を行いました。海外からの移住政策は、労働力確保や少子化対策の文脈で語られることが多いですが、外国人特有の疾患に対して医療対応が求められることを実感しました。

【臨床】

別府市の小児科医の平均年齢が上昇しています。日常診療に加えて休日当番医、夜間こども診療、乳幼児健診を継続することが厳しくなってきました。今後は5歳児健診や軽度外傷の対応も求められる状況です。2025年末時点の別府市の人口は111,352人です。2025年10月の人口推計によると、国内の一自治体あたりの平均人口は70,816人でした。別府市だけの問題ではなく、国内の地方全体の課題と捉えることができます。さらに国内の多くの公的病院で経常収支が赤字に陥りました。2026年度の診療報酬改定で本体部分が約3%引き上げられる方針ですが、インフレ下でどの程度、経営安定に寄与するか注目です。

【研究】

専門医取得のための臨床研究を中心に、治験や多施設共同研究を行っています。AIやWebツールを上手に利用しながら研究発表される機会が増えてきました。当院でも活用を進めていきたいと思えます。

【教育】

後期研修以降の小児科専門医・サブスペシャリティ専門医の取得を引き続き支援していきます。

2) 2026 年に向けて

昨年の年報で、労働人口減少や患者数減少を見据えた医療体制の再整備と医療施設の集約化が起きうるかもしれないと申し上げました。別府市でも2026年は夜間休日の小児救急医療体制に変更が生じます。日中のかかりつけ医の受診、夜間こども診療、救急要請の適切な利用が、これまで以上に重要となります。近隣の小児・産科医施設の皆様には日頃よりご支援、ご配慮をいただき感謝しております。今後ともよろしくご依頼申し上げます。

医療機関からの外来受診、入院、新生児搬送などのご依頼は

(平日、日勤帯) TEL 0977-67-1111 → 小児科外来 (小児)、内線 8126 (新生児搬送・古賀直通)

(夜間休日) TEL 0977-67-1111 (代表経由でNICU当直医) まで よろしくご依頼致します。

国立病院機構 別府医療センター 小児科 古賀寛史

E-mail: koga.hiroshi.ab@mail.hosp.go.jp